Web版 美術新報

総合美術雑誌 明治35年～大正9年

◆明治・大正期の近代画家・文人や展覧会等の動向を探る貴重・詳細な記録・彙報欄記事（1万1千余件）をデータベース化
◆検索データ全2万3千余件を収録し、縦横無尽の検索が可能
◆西洋近代美術の移植・伝統的日本美術の再認識を主導した貴重資料全300冊の完全データベース化！

日本近代美術史の証言――
本格的美術評論誌の嚆矢が
オンライン版で登場！

検索目録：中島理壽 編・村田眞知 協力
全300冊：総7,348 画像　画報社・東西美術社発行
（カラー画像21点収録）

八木書店

Web版美術新報発刊に際して

『美術新報』は明治三十五年三月に第一巻第一号を発行して以来、大正九年終刊号を出すまで、実に十九年間（全三百冊）の長きにわたり、わが国の美術ジャーナリズムの最高峰として、斯界に貢献するところ極めて大きなものがありました。と言いますのも、原本の刊行された明治末年から大正時代にかかる一時代は、あたかも、わが国の近代美術が確実な基盤を築き、ヨーロッパから移植された洋画も一応の定着を見せた時代であったからであります。すなわち、明治美術会、白馬会、太平洋画会などの発展から、文部省美術展覧会、国民美術協会の設立などに見られるアカデミズムの確立、そしてその反動勢力となった二科会の独立をはじめとする在野団体の出現とその活動、再興美術院の旗揚げによる伝統絵画（日本画）の近代化など、わが国近代美術史上の多彩にして重大な事項が相次いでおります。この時代にあって、『美術新報』は、その表題の示すように、他の美術雑誌に比して、「報道」ということに特別力を入れていたので、今日から見て、洋画、日本画は言うに及ばず、彫刻、建築、工芸――時に、音楽、舞台、文芸など――広範囲にわたって芸術一般の動向、作家の消息、団体展個人展の開催詳報などを伝え、資料的価値が極めて高いにもかかわらず、何分全巻完全揃いとして保存されるものが皆無という有様で、研究者の間に、その完全復刻が長く渇望されていました。

去る一九八三年から八五年にかけて、著作権者の皆様からのご協力を頂き、『美術新報　復刻版』を書籍版にて刊行させていただきました。学校・図書館・研究者をはじめ各方面からご好評を賜り、品切れになっておりましたものを、二〇〇三年、DVD版として刊行いたしました。その際、検索データに、彙報欄記事一万二千件のデータを加えましたところ、更なる高い評価をいただきました。その後パソコンのOSの変更によりDVD版の利用が難しくなりました。

この度、読者からの強い要望と昨今の情勢を鑑みて、ネットアドバンス社のジャパンナレッジLibに搭載することで、DVD版を凌ぐ使いやすさを実現することが出来るようになりました。DVD版をご購入の方には、バージョンアップ価格（60%オフ）を用意いたしましたので、ご利用いただきたくお願い申し上げます。

㈱八木書店　古書出版部

近代美術史の十九年間

明治三十五年～大正九年の貴重な資料

『美術新報』の創刊された明治三十年代は、明治美術会、白馬会、太平洋画界などの洋画の勢力が定着された時代で、それを反映して、美術雑誌も全盛時代を迎えることになった。三十年代だけでも、創刊された美術雑誌は、実に十数誌を数えたが、長く刊行を継続したものは意外に少なく、早いもので二、三号、長くて一、二年で姿を消してしまっていたが、一人『美術新報』のみは、以来十九年間の長きにわたり全三百冊（通巻号数は二九八号）を定期的に刊行し、四十年代初頭における文部省美術展覧会の開設と、アカデミズム確立の経緯、そして、明治末年から大正上期における、ヨーロッパ新興美術運動移植の過程と、その影響による在野美術団体の簇生など、わが国近代美術史上の重要事項をつぶさに記録したのである。今日『美術新報』が近代美術史研究の重要資料の一つに数えられる理由もそこにある。

美術ジャーナリズムの嚆矢

最初の総合芸術誌

日本画の専門誌、団体機関誌が美術雑誌のすべてであった当時、『美術新報』は、積極的に西洋美術を紹介するばかりではなく、官展在野を問わず、わが国美術界の現状を適確に把握し、団体個人の各種展覧会の開催を速報し、著名執筆者による展覧会評、合評などを、出品作の豊富な写真図版と共に掲載。

さらに受賞作の紹介、第一線作家論と作品、新進作家とその作品紹介といった具合に、その編集態度は、常に、一党一派に偏することなく、あくまでも中立の立場であって、これは、わが国における近代的美術ジャーナリズムの確立でもあった。しかも、日本画、洋画、彫刻は勿論、建築、工芸から、音楽、文芸、舞台にいたるまで関連芸術を網羅した総合芸術雑誌というものも、これまた最初の試みであった。

最高の執筆陣を網羅

若手新進執筆者を起用

編集責任者は、初期ダブロイド判時代は小原大衛、後期菊倍判時代に入って、坂井犀水、児島喜久雄、大隅為三などが歴任している。顧問格には、黒田清輝、久米桂一郎などがいたが、中でも最も強力に編集に参加し、自らも情熱的に執筆したのは岩村透であった。

前期の執筆陣には、岩村透、九鬼隆一、正木直彦、瀧精一、伊東忠太、小山正太郎、黒田清輝、久米桂一郎などの重鎮が顔をそろえ、後期には、森田亀之輔、山下新太郎、清見陸郎、木下杢太郎、児島虎次郎、斎藤与里、石井柏亭、児島喜久雄、矢代幸雄、有島生馬、高村光太郎など、気鋭の執筆家が登場してくる。殊に、新進若手の執筆家による、後期印象派以後の新興美術思想の紹介は、『スバル』『白樺』と相まって、日本画壇に裨益するところが大きかった。

美術印刷に新生面拓く

貴重な口絵、図版資料

明治四十二年以後、写真版、原色版を豊富に採用し、発行部数が倍増した。発行所の画報社は、山東直砥の創設であるが、当初からこれに協力したのが東京印刷株式会社社長星野錫である。星野は、早くから新しい印刷技術の導入に情熱を燃やした人物で、コロタイプ印刷、一色印刷版、三色版、オフセット多色印刷などを誌上で実地に試み、美術印刷の発展に貢献するところ甚だ大きかったが、中でも、オフセット多色印刷による名画複製の如きは、わが国で初めて試みられたものであった。

本誌に毎号掲載紹介されている当時の美術作品の中には、今日すでにその実物の存在すら明かでないものもあり、文字だけの文献以上に貴重な資料と言ってよいであろう。一巻から九巻までは、新年号毎に、別刷付録として西欧名画の複製がつき、十巻以後は毎号巻頭口絵（原色版・単色版）がつく。

コンテンツの特長

◆落丁・乱丁のない完全な定本

可能な限り原本２冊以上を照合して刊本した原本（復刻版）の誌面をデジタル画像化。

◆詳細な検索データ２万３千件

『美術新報』全300冊7,348頁に、以下、合計２万３千件の検索データを収録。

①逐号目録：３千余件。本文見出しおよび内容から分類したキーワード

②図版目録：7千余件。文中に掲載された図版の作者や主題

③彙報目録：1万1千余件。関連人物・団体・展覧会などの日々の詳細を記す８万語

Web版の特長

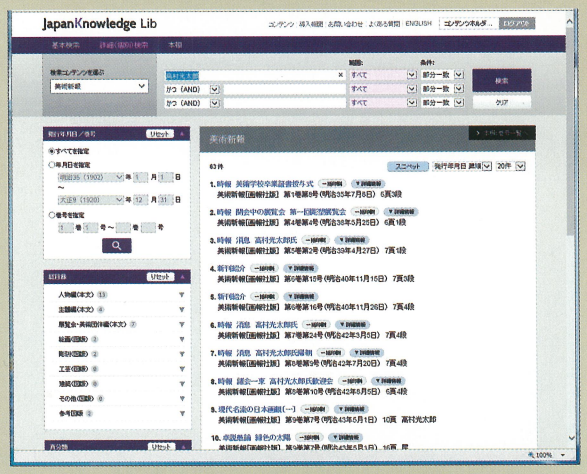
◆いつでもどこでも閲覧が可能

インターネット環境なら場所やデバイスを選ばず「美術新報」が閲覧が可能。DVD版のような入れ替え・保存管理が不要。迅速軽快な画像閲覧が可能。

◆ジャパンナレッジ Lib 収録コンテンツとの連携

日本国語大辞典、日本大百科全書、国史大辞典、Web版日本近代文学館などと同じプラットフォームで検索可能。（各コンテンツご購入のお客様のみのサービスとなります。）

基本的な使い方

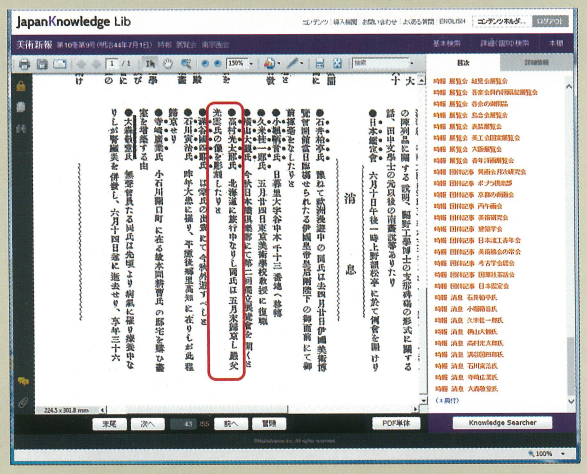


◀ステップ１

検索と検索結果の表示

「詳細（個別）検索」で「美術新報」を選びます。検索窓に調べたい検索語を入れて「検索」ボタンをクリックすると検索結果が表示されます。

「高村光太郎」で検索してみると、63 件ヒットしました。

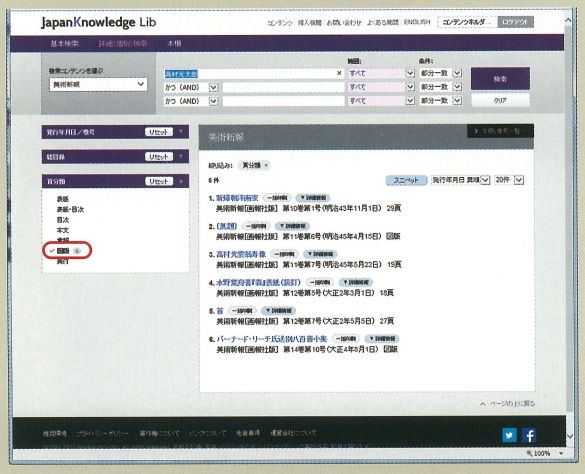


◀ステップ２

画面表示

検索結果の中から、見たい項目を探してクリックすると、当該誌面が表示されます。

「高村光太郎」の検索結果の中から 18 番目の「消息（彙報欄）」を見てみます。誌面の中（ここでは 3 段目）に高村光太郎の記事が掲載されています。



◀ステップ３

詳しく検索（ファセット利用）

ステップ２の記事に、高村光太郎と確執があったと伝えられている父光雲の像を制作するといった内容が記されているので調べてみることにします。

改めてステップ１の検索結果を表示し、左下にある頁分類ファセットの中から「図版」のみに絞り込むと、高村光太郎関連の図版が６件表示されます。

◀ステップ４

画像表示・印刷

検索結果の中から「高村光雲翁寿像」を選んで誌面を表示してみました。

表示画像は、ブラウザのPDF機能（ツール）を使ってサイズ変更（ウインドウ幅に合わせる／全体表示）ができます。また、誌面画像をプリントアウトすることも可能です。
なお、検索結果一覧の「一括印刷」ボタンを使うと、複数ページにまたがる記事を印刷することができます。

（画像は開発中のものです。正式リリース後に変更がある場合があります）

原色版見本 カラー画像として収録

上：斎藤豊作「初冬の朝」（大正３年11月第14巻1号掲載）

左下：石井柏亭「独逸の女」（大正元年11月第12巻1号掲載）

右下：寺崎廣業「清 麗」（大正５年11月第16巻1号掲載）

コンテンツ料金（初回契約時のみ）

（本コンテンツの価格はすべて税別）

〔新規ご契約〕　美術新報（全300冊）……350,000円

〔DVD版購入者優待価格（60%OFF）〕　美術新報（全300冊）……140,000円

※本サービスは、JKBooks としてお申し込みが必要となります（ジャパンナレッジ Lib には含まれておりません）。
※ご購入時に、プラットフォームを①Web版美術新報の単独利用か、②ジャパンナレッジ Lib との統合、のいずれかをご選択ください。
①Web 版美術新報の単独利用の場合
年間システム利用料 7,000 円頂戴致します。同時アクセス数は 4 です。
②ジャパンナレッジ Lib との統合の場合
年間システム利用料はかかりません。同時アクセス数はジャパンナレッジ Lib に準じます。
※ジャパンナレッジ Lib の会員でないお客様は、登録および初期設定費用として、入会費 15,000 円、（初回契約時のみ）と、年間システム利用料を頂戴いたします。詳細はお問い合わせください。
※ご購入時に、書籍版全ページの画像データを DVD メディアでお納めします。
※動作環境については、ジャパンナレッジ Lib ウェブサイトにてご確認ください。

無料トライアルのご案内

まずはトライアル版をお申し込みください。1ヶ月間無料でご利用いただけます。
申込書は以下のサイトからダウンロードいただけます。
●八木書店ホームページ　http://www.books-yagi.co.jp/pub/
●ジャパンナレッジ Lib ホームページ　http://japanknowledge.com/library/
【八木書店古書部店舗で、実際に試用できます。ご来店をおまちしております】

Web 版日本近代文学館のご案内

・Web 版日本近代文学館には、『太陽』『文芸倶楽部 明治篇』『校友会雑誌』『滝田樗陰旧蔵 近代作家原稿集』の 4 つのコンテンツが搭載されています。
・明治から昭和までに刊行された近代文学雑誌と同時代の『美術新報』を同時に検索することで、相互に補完した新たなデータのつながりが期待できます（ジャパンナレッジ Lib と統合して利用する場合に限る）。
・価格、収録書目など詳細は八木書店ウェブサイト（http://www.books-yagi.co.jp/pub/）をご覧ください。

編集・刊行　八木書店
配信・運営　NetAdvance
小学館グループ
株式会社ネットアドバンス

〒101-0052　東京都千代田区神田小川町 3-8
Tel:03-3291-2961 ／ Fax:03-3291-6300　pub@books-yagi.co.jp　http://www.books-yagi.co.jp/pub/

〒101-0051　東京都千代田区神田神保町 2-30　昭和ビル 3F
Tel:03-5213-0872 ／ Fax:03-5213-0876　b2b@japanknowledge.com

PP 15000/201504